



おおもと くにみつ 議員
大本邦光

部活動の地域移行の

円滑実施について問う

質 部活動の地域移行について本市教育委員会の見解を尋ねる。

答 昨年8月に、学校代表の先生や地域のスポーツ指導者及び関係部局等による検討委員会を立ち上げ、課題解決に向けた方策を熟議し、継続可能な地域部活動について検討している。また、地域部活動の費用負担に関しては、生徒の活動機会の保障の観点や、受益者負担の観点から保護者が負担することは適切であることとされているが、過度な負担にならないように、しっかりと県へも応分の費用負担を要望していく。今年度は笠岡市こども教育振興基金を活用し、経済的なハードルを心配せずに、興味がある活動へ挑戦できるような地域移行を積極的に推進し、スポーツ及び文化活動から学ぶことが



できる機会を確保していきたい。

質 希望する部活動について生徒の意見を聞く機会を持つのか。

答 今現在は持っていないが、今年度中にはアンケート調査を行いたいと思っている。

プレコンセプション（妊娠前）
ケアについて問う

質 プレコンセプションケアを踏まえて将来の妊娠へ備える情報を伝えて、人生設計に役立てるためにも妊活は男女2人一緒に有効と考える。本市の取組を尋ねる。

答 妊活希望者向けのセミナーは現在実施していない。具体的な計画はないが、小児科医を講師とした若い世代の子育て事業等については、継続して実施し、啓発に努めていきたいと考えている。



やまもと さとし 議員
山本 聡

笠岡湾干拓地内の施設の

有効利用について問う

質 笠岡ふれあい空港や周辺に放置されている公園など、十分に機能しているとは言えない施設の今後の活用計画について、また、来春稼働を控えたバイオガス発電所との干拓内連携について尋ねる。

答 水と緑のふれあい広場は、緩衝緑地として整備し、公園や風車、人工池等の資源を持ちながら十分に活用できていない。賑わい創出の一端を担えるよう検討したい。また、笠岡ふれあい空港は、飛行場としての機能の再生に向けて航空無線局開局の準備を進め、災害時における自衛隊、警察航空隊等、災害支援航空機の拠点として整備する。バイオガス発電設備は、堆肥処理と自給飼料生産、臭気対策及び干拓地の畜産振興についても連携して取り組んでいる。



学校現場での防災教育並びに

防災対策の充実につながる取組を

質 災害対策を自分事化するため、教育現場において実践的な防災教育を導入してはどうか。

答 今年度、積極的に児童及び生徒が参加できる訓練を計画していく。自助、共助の取組を教育現場で実践し、災害を風化させない防災教育を実施していきたい。

質 中高生の防災士の資格取得に向けての取組を尋ねる。

答 防災士の資格取得要件に年齢制限はなく、中学生への資格取得の支援を実施している自治体もあるなど、資格取得の必要性が認識されはじめた。まずは、防災教育を通して魅力や必要性を学び、自発的に地域を守りたいと思えるような取組から始めていきたい。